

NEWS LETTER

一般社団法人 日本看護研究学会 近畿・北陸地方会

目次 1. 2019 年度の主な事業

- ・ 第 29 回地方会看護研究継続セミナー (2019. 12. 8)
 - ・ 第 30 回地方会看護研究継続セミナー (2019. 11. 23)
 - ・ 第 33 回近畿・北陸地方会学術集会 (2020. 3. 21)
2. 第 33 回近畿・北陸地方会学術集会のお知らせ
3. 看護研究継続セミナーの報告

1. 2019 年度の主な事業

1. 第 29 回 看護研究継続セミナー

※セミナーの報告は 2～4 ページをご参照ください。

日時：2019 年 12 月 8 日（日）13：30～17：00（台風による影響で日程が変更となりました）

会場：福井医療大学

プログラム：第 1 部：「質的研究 M-GTA 分析のプロセス –データ取りから分析まで–」

第 2 部：グループワーク「データを分析してみよう！」 「研究相談会」

2. 第 30 回 看護研究継続セミナー

日時：2019 年 11 月 23 日（祝）13：30～17：00

会場：滋賀医科大学医学部

プログラム：第 1 部：「自分の実践現場の感覚がリサーチクエッションを見つける！」

第 2 部：グループワーク

3. 第 33 回 近畿・北陸地方会学術集会

日時：2020 年 3 月 21 日（土）

会場：聖泉大学

学術集会長：小山 敦代（聖泉大学）

テーマ：健康寿命 UP を目指す看護研究と看護実践

※事前参加申込みの受付をしています。詳細は 2 ページをご参照ください！
皆様のご参加をお待ちしています。

2. 第 33 回近畿・北陸地方会学術集会のお知らせ

日時：2020年3月21日（土）

会場：聖泉大学

学術集会長：小山 敦代（聖泉大学）

テーマ：健康寿命 UP を目指す看護研究と看護実践

【会長講演】 健康寿命 UP を目指す看護&研究

【特別講演】 彦根城の魅力と近畿・北陸の城

【教育講演】 日本の古代文字から「看護の使命」を読み解く

【シンポジウム】 滋賀県における健康寿命 up を目指す地域での
取り組み

【事前参加申込み】 期間：2020年2月21日（金）まで

近畿・北陸地方会学術集会事務局まで、下記の方法でお申込みください。

◇FAX の場合：「参加申込書」に必要事項をご記入いただき、送信下さい。

◇E-mail の場合：下記の事項を記入の上、メールで送信ください。

- ①お名前（ふりがな）、②ご所属、③会員・非会員、④お電話番号、
- ⑤メールアドレス、⑥お弁当のご希望の有無（1,000 円）

※ホームページも合わせてご欄下さい。



お問い合わせ先： 第 33 回近畿・北陸地方会学術集会事務局

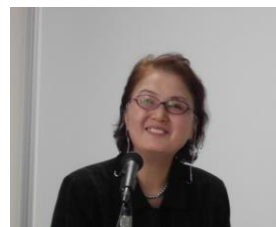
E-mail : jsnr2020shiga@seisen.ac.jp TEL : 0749-47-8400 FAX : 0749-43-5201

学会 HP <https://www.jsnr.or.jp/district/kinki-hokuriku/>

3. 看護研究継続セミナーの報告

第 29 回のセミナーでは泊祐子氏を講師に迎え「質的研究 M-GTA 分析のプロセス –データ取りから分析まで–」と題したご講演をいただき、第 30 回のセミナーでは本田可奈子氏を講師に迎え「自分の実践現場の感覚がリサーチクエッションを見つける！」と題したご講演をいただきました。講師の先生方にセミナーの企画意図や講演内容の要旨及び感想をご執筆頂きましたので紹介をいたします。

『質的研究 M-GTA 分析のプロセス
–データ取りから分析まで–』を担当して
大阪医科大学看護学部 教授 泊 祐子 氏



近畿北陸地方会でのセミナーに久しぶりに参加した。最近では地方会に浦島太郎のような気持ちで参加している。地方会事務局をさせてもらっていた 20 年近く前を思い出した。近畿四国地方会第 12 回学術集会（平成 11 年 3 月 28 日）を担当させてもらい、琵琶湖博物館の方の講演やワークショップ『人々の生活の営みと看護活動』を企画し、楽しかったことが懐かしく思い出された。

この度、久しぶりに地方会から継続セミナーのお声がかかり、光栄に思っている。大学院授業の「看護理論」や質的研究の指導を振り返り、講義内容を考えた。私の研究室の院ゼミでは、毎年木下康弘先生の M-GTA の書籍 2 – 3 冊の抄読会をした後、3 – 4 人のグループに分かれて、2 –

3時間ワークをしている。ワークの結果を発表すると、同じデータを使っても、グループによりかなり違う概念や出てきた概念の大きさがバラバラなことに院生たちは気づく。具体的な分析の視点をもつ重要性やことばの表現の仕方、ことばへの繊細な注意を払うことを学んでいるように思う。そんな様子を見ると少しの時間でもデータを分析する重要性を感じ、サブタイトルに「データ取りからデータの分析まで」として、GWの時間を入れてもらった。今回のセミナーでも、「わかった」という手ごたえを得てほしくて、1つのデータの解釈の仕方、目の付け処、あるいは着眼の仕方自体に質的研究に慣れない方にも気づいてもらえたのではないだろうか。

M-GTAだけでなく、どの質的研究法も研究方法論にはその研究方法論がもつ前提、理論背景がある。講義では、まず、質的研究とは何か。質とは何を指すのか、その認識を共通理解する必要性から、「りんご」の絵をみて質と量を考えてもらうことから始めた。

質的研究は主観であり、あいまいで信頼性に欠けるといわれる批判を浴びることがある。質的研究を行った者が自分の研究に対して、その批判に反論できるだけの方法論への理解をしてほしいと思う。質的研究は、とくに自分が良く使うM-GTAは、看護現象を捉えられる範囲に時間と空間、関係性があり、複雑な現象をわかりやすく見える形にできる力がある。対象者が話してくれた言葉や観察した記録という主観であっても、分析結果を示した時に、「あっそうね。わかる」という共通理解が得られれば、妥当性は担保されるので、しっかりと分析できれば、動きをもつ看護現象を表現できる。

M-GTAを用いるのに適した研究テーマは？どのような看護現象をとらえるのに適しているのか。その点を明確に押さえてセミナーを進めたいと思っていた。わずかな時間で十分に説明できなかったが、意図はくみ取っていただけたと思う。短い時間でしたが皆様と一緒に勉強できたことに感謝している。ありがとうございました。

参加者の皆様の中には、これから使ってみようと思う方、既に使われている方や教えられている方もおられたが、少しでも質的研究に洞察を深めたり、変化を感じてもらえたら幸いである。

今回の出会いを大切に、今後も研究や研究会等での交流ができれば嬉しく思う。皆様の輪が広がり、楽しく研究・教育について語れる機会が増えることを願っている。

『自分の実践現場の感覚がリサーチクエッション を見つける！』を担当して

滋賀医科大学医学部看護学科 准教授 本田 可奈子 氏



看護実践はいまだ言語化されていない現象があり、暗黙知が多いと思います。どのようにしたら暗黙知にアクセスできるのか。量的研究や、インタビュー等による質的研究はかなり浸透し、それらは着実に看護の質に貢献してきました。しかしながらともすれば、サンプル数を積むことで一つのケアのなかにある暗黙知をそぎおとしてしまっている場合もあるのではないのでしょうか。「自分の実践現場の感覚がリサーチクエッションを見つける！」というテーマは、いわゆるベッドサイド（事例）にこそリサーチクエッションがあるという思いをそのまま言葉にしました。今回は臨床疫学におけるリサーチクエッションの構造化とともに、事例研究に目をむけてリサーチクエッションを考えるプロセスを紹介することにいたしました。

前半は、臨床疫学におけるリサーチクエッションの構造化をとりあげました。それは代表的な PICO と PECO におとしこんで自分の臨床での疑問を明確にしていくことです。どのような人 (Patient) にどんな要因 (Exposure) が、または何を行うと (Intervention) それがない場合と比較して (Comparison) どうなるのか (Outcome) に定式化することで疑問が明確になり、整理しやすくなります。少し演習も取り入れながらすすめていきました。後半は今回の焦点となる事例研究のリサーチクエッションの考え方についてとりあげました。事例研究のリサーチクエッションのねらいは、「何を探索する」のか、「何がどの程度ある」か記述すること、「なぜどのようにして」を説明することです。また事例研究には二つのアプローチがあり、一つ目は事例そのものを明確にする単一事例の特異的な本質の探究、二つ目は事例の本質にあるアーキタイプやモデルを仮説的に抽出しようとする理論モデルの構成です。しかし事例研究の最も大切なところは、日々の看護実践のなかから実践者がこころに残った事例をとりあげることからはじまることです。ポジティブな印象でもネガティブな印象でも、印象に残っていることの中にケアの意味や本質が隠されています。ここからさらに二つのアプローチを用いてリサーチクエッションを明確にしていきますが、何に関心をもち、何に疑問を抱いて「この事例」に向き合おうと思ったのか、ここに実践者の実践の感覚・感性がいかされる場所だと思います。

臨床や、臨地にはたくさんの看護現象があります。最近では事例研究に注目している学会もみられるようになってきました。今一度目の前の実践を見つめなおし、暗黙知を看護者間で共有することが必要であり、事例研究はそれを実現してくれる近道ではないかと思っています。

ー看護研究継続セミナーでのグループワークの様子ー



※セミナー参加者からの感想をホームページに掲載させていただいておりますので、合わせてご欄下さい。

本セミナーでは、看護研究を本格的にやってみたい方、院内看護研究で壁を感じ困っておられる方に対して、サポートし、発表につなげる活動をしています。

※本地方会に関するお問い合わせ・ご連絡は下記の事務局までお願いします。

日本看護研究学会 近畿・北陸地方会 事務局

【世話人代表】

福井大学学術研究院 医学系部門看護学領域

基盤看護学 上野栄一

〒910-1193 福井県吉田郡永平寺町松岡下合月 23-3

TEL:0776-61-8544 E-mail:eiichiu@u-fukui.ac.jp

【事務局】

福井医療大学保健医療学部看護学科

近田真美子 藤本ひとみ

〒910-3190 福井県福井市江上町 55-13-1

TEL:0776-59-2204 FAX:0776-59-2205

◆ ニュースレターでは、本地方会の活動に関する情報をお届けいたします。

詳細な情報をお知りになりたい場合は、学会ホームページも合わせてご活用ください。